

Topic 43

ネバダ州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) ネバダ州の VCP

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。

今週は、ネバダ州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

1) こんなところです

カリフォルニア州の真東に位置するネバダ州。総面積は約 29 万km²弱であり、全米で 7 番目に広い州です。総人口は 240 万人（2005 年）、人口密度は約 8 人/ km²です。1864 年 10 月 31 日、36 番目に米国に加入しました。

同州の誕生と切っても切り離せないのが 19 世紀後半にはじまったゴールドラッシュ。今でこそ国内外から多くの観光客が訪れる米国西海岸ですが、その当時は一般に辺境の地として認識されておりました。が、どうもそこに行けば金が取れるらしい！という噂が広まり、多くの人々が一攫千金を夢見て集まってきたのです。人が集まり、その人々を相手にした商業が生まれてくる、そして西海岸にはだんだんと町ができていったのですね。

昔はゴールド、今はカジノ。そうです、ネバダ州にはセンセーショナル&エキサイティングなカジノリゾート「ラスベガス」や「リノ」があり、世界中から観光客が訪れます。ちなみに、ラスベガスを訪れる観光客の数は、米国内からの観光客も合わせて年間約 3500 万人、日本人観光客はそのうちの 1%程度だそうです。

なんだかお金稼ぎにまつわることばかり並べましたが、同州の魅力はそれだけではありません。この州には多くの山脈そして砂漠が広がっています。州名の「ネバダ」は「シエラ ネバダ山脈」由来であり、スペイン語で「雪の多い、雪に覆われた」を意味します。その名の通り冬はスキーやスノーボードが楽しめる場所です。また、だだっ広い砂漠を目の前にすると（特に私のように砂漠にあまりなじみのない人間にとっては）、地球が生み出す表情の不思議や魅力に驚きます。

2) ネバダ州の VCP

では本題のブラウンフィールドにうつりましょう。同州には VCP（自主浄化プログラム）とブラウンフィールド プログラムが設置されています。前者は土壌汚染の浄化目標の設定や環境責任保護の仕組みをまわし、後者は USEPA から同州へ当てられた調査・浄化に対するファンドの運用・管理を行っています。両プログラムを運営しているのはネバダ州環境保護局です。

州のホームページ (<http://ndep.nv.gov/bca/spfdhome.htm>) を見ると、これら2つのプログラムは州のスーパーファンドプログラムが管理・運営しているようです。同州にはどれくらいのブラウンフィールドが存在するのか？どの程度ブラウンフィールドが地域社会問題として認識させているのかはよく分かりません。

とはいえ、州は次のような再開発の壁を認識し、取り組んでいく姿勢をみせています。

- ・ 浄化費用をカバーする資金の調達が難しい
- ・ 環境責任を負うことに不安がある
- ・ 浄化目標がはっきりしていない
- ・ 近隣の状態や不動産マーケットが思わしくない
- ・ 経営が思わしくないコミュニティに投資することを嫌がる、等。

同州はUSEPAのRegion オフィス (Topic27 参照) とは密接な関係を保っており、市町村に対して直接USEPAからブラウンフィールド助成金を申請するよう奨励あるいは援助しているようです。

今のところ同州におけるブラウンフィールド再開発事例はそれほど多く紹介されていませんが、そのなかの一つを「坂野のつけたし」でご覧になってみてください。

来週は、オレゴン州のVCPをご紹介します。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname -- 「The Battle Born State (南北戦争のころに生まれた州)」「銀の州」「鉱業の州」「Sagebrush (ヤマヨモギ; sageには賢人とサルビアの意味があるそうです)の州」

事例紹介 --Las Vegas (ラスベガス) : スペイン語で牧草地を意味するvegaが街の名前となったご存知ギャンブルとエンタテインメントのメッカ。1911年に市となっています。カジノの集まる繁華街から北東へ約6kmいったところに、州軍の訓練所、兵器庫がありました。そこでは、1948年から1997年までのあいだ、車両のメンテナンス、薬品や物資の保管、一般管理業務が行われていました。土地面積は約15000㎡。

1999年に400m³をすこし超える程度の汚染土壌を除去して浄化工事は終了していますが、このサイトで特筆できることは、全米で初めてEPAのリボルビングローンのための助成金(RLF)を活用したことでしょう。ラスベガス市は、EPAからの助成金50万ドルをうけ、ブラウンフィー

ルド再開発を行なう事業者に対して低利で浄化用の資金を用立てするプログラムを立ち上げました。このサイトでは、5万ドル、2年間、年2%のローンを活用しました。

このローンを利用することができるのは、コミュニティーと協調できる、資金力のある、そして浄化工事をやり遂げることのできる土地所有者あるいは開発事業者、となっています。汚染原因者は対象外です。借りたお金は、浄化工事に充てることはできますが、調査費用は対象外です(別の助成金があるので)。また、自然起因の汚染土壌の対策費用やアスベストの撤去費用を、これで賄うことはできません。

現在、この場所には、コミュニティーセンター、カルチャーセンター、商業店舗などが建っています。(以下のリンクから最近のサイトの様子がわかります。矢印から南東にむかって展開する区画が今回紹介した場所です。

<http://www.google.co.jp/maps?f=q&hl=ja&q=250+N.+Eastern+Ave.,+89101&ie=UTF8&t=k&om=1&ll=36.16493,-115.111002&spn=0.008107,0.021458>)